

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【公開番号】特開2008-106062(P2008-106062A)

【公開日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-254990(P2007-254990)

【国際特許分類】

C 07 D 241/42 (2006.01)

C 09 K 11/06 (2006.01)

H 01 L 51/50 (2006.01)

【F I】

C 07 D 241/42 C S P

C 09 K 11/06 6 9 0

C 09 K 11/06 6 5 0

H 05 B 33/14 B

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月8日(2010.9.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

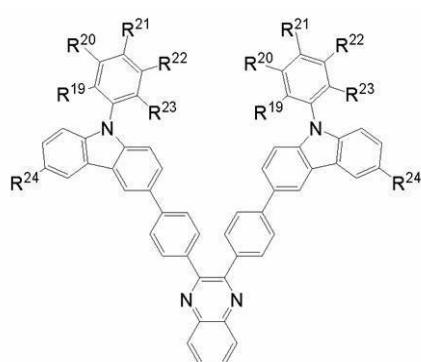
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

一般式(3)で表されるキノキサリン誘導体。

【化1】



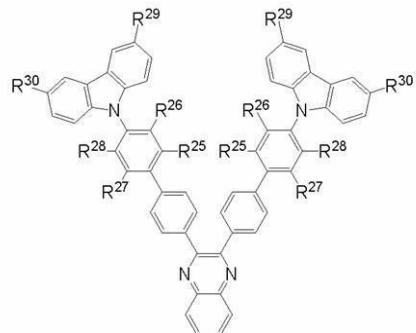
(3)

(式中、R19～R24はそれぞれ同一でも異なっていてもよく、水素原子、または炭素数1～4のアルキル基、または炭素数6～15のアリール基のいずれかを表す。また、R19とR20、R20とR21、R21とR22、R22とR23はそれぞれ互いに結合し、縮合環を形成してもよい。)

【請求項2】

一般式(4)で表されるキノキサリン誘導体。

## 【化2】



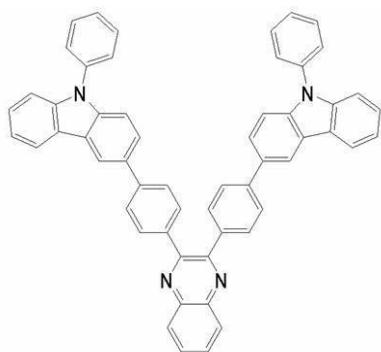
(4)

(式中、R<sub>25</sub>～R<sub>30</sub>はそれぞれ同一でも異なっていてもよく、水素原子、または炭素数1～4のアルキル基、または炭素数6～15のアリール基のいずれかを表す。また、R<sub>25</sub>とR<sub>26</sub>、R<sub>27</sub>とR<sub>28</sub>はそれぞれ互いに結合し、縮合環を形成してもよい。)

## 【請求項3】

構造式(12)で表されるキノキサリン誘導体。

## 【化3】

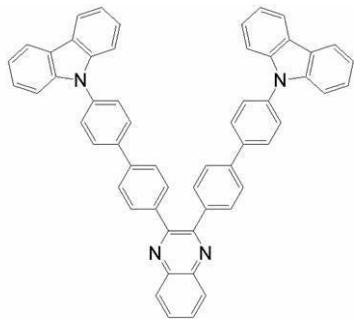


(12)

## 【請求項4】

構造式(13)で表されるキノキサリン誘導体。

## 【化4】



(13)

## 【請求項5】

一対の電極間に、請求項1乃至4のいずれか一項に記載のキノキサリン誘導体を有することを特徴とする発光素子。

## 【請求項6】

一対の電極間に発光層を有し、

前記発光層は請求項1乃至4のいずれか一項に記載のキノキサリン誘導体と蛍光発光性物質を有することを特徴とする発光素子。

【請求項7】

一対の電極間に発光層を有し、

前記発光層は請求項1乃至4のいずれか一項に記載のキノキサリン誘導体と燐光発光性物質を有することを特徴とする発光素子。

【請求項8】

請求項7において、

前記燐光発光性物質の発光スペクトルのピークが560nm以上700nm以下であることを特徴とする発光素子。

【請求項9】

請求項5乃至8のいずれか一項に記載の発光素子と、前記発光素子の発光を制御する制御手段とを有する発光装置。

【請求項10】

表示部を有し、

前記表示部は、請求項5乃至8のいずれか一項に記載の発光素子と前記発光素子の発光を制御する制御手段とを備えたことを特徴とする電子機器。